

SRU

Vol.
1

SRU (Super Regional University)
=地域で学び地域のあらゆる
人々に学びの場を提供すると
ともに、世界標準の研究力
によって地域と世界を繋ぎ、
地域と世界を変えること
のできる大学

Super Regional University

HELLO!
SENPAI

土佐和紙を使った
唯一無二の作品を
世界に発信

和紙アート作家 / 横山 明子さん

【研究のススメ】

高知大学 IoP 共創センター
高知大学医学部 海洋医学・海洋医療

【ピックアップ高知大学生】
放送研究会 JAKKU

【カケル大学】

牧野植物園 × 高知大学
Kochi University TOPICS



高知大学
Kochi University

TAKE FREE

Contents

活躍する高知大学の先輩に
会いにいきました!

HELLO! SENPAL

Vol.1

和紙アート作家・イタリア在住
教育学部卒
横山明子 さん

土佐和紙を使った 唯一無二の作品を 世界に発信

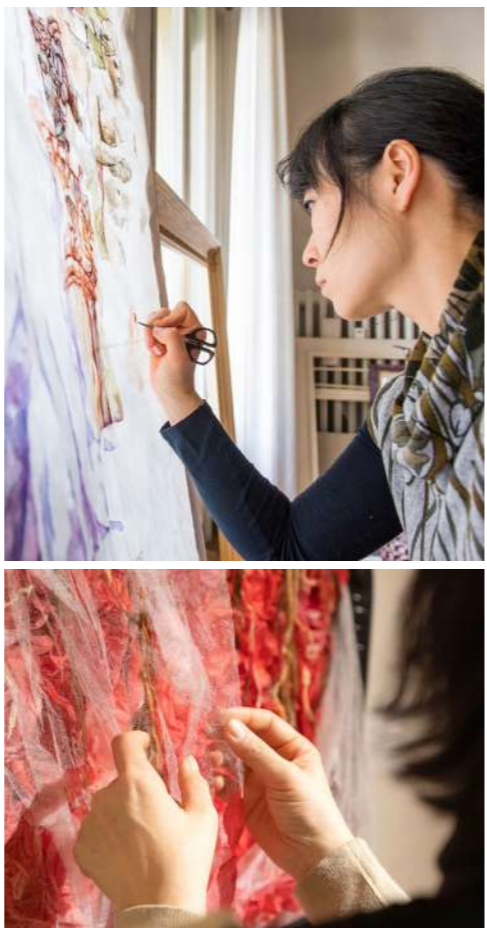
ちぎった和紙を貼って創る 立体感のある不思議な作品

2022年12月、高知県の町紙の博物館で個展「和紙のルネサンス」が開かれました。額縁の中にたたずむのは、輝く長い髪を持つ美女たち。しかし、よく見ると、その髪は画面から飛び出して、額縁の外にまで伸びています。ペールのような衣装や深紅のバラの花びらも、画面の上をふわふわ漂っているようです。一見、油絵のようですが、そうではありません。薄い和紙を何層にも重ねて創った、立体的なアート作品なのです。高知大学卒業の作家、横山明子さんが作品について語ります。

絵画って、額のなかに収まっているものですよ。それが外に出てきたらビックリするでしょう。3Dのように立体感を出してインパクトを与え、それから素材である和紙に興味を持ってもらう。和紙との「コラボレーション」だと思って制作しています。

ルネサンスに強く憧れ、 大学卒業後、イタリアに留学

横山明子さんは幼いころから絵が好きで、家にあった画集をよく見ていました。なかでも魅力を感じたのが15、16世紀にイタリアで起こったルネサンス美術。14歳のとき、イタリア人の男子と文通を始めたこともあり、一層、ルネサンス美術への思いを募らせていきました。高知大学には1994年、教育学部に当時あった特別教科(美術・工芸)教員養成課程、通称「特美」に入学。本格的に美術を学びます。



小学生のとき、画集でダ・ヴィンチの絵を見たとき、「すごい」と思いました。絵の美しさはもちろん、背景の要素には寓意(暗示的な表現)などの意味があることを知って、ますます興味をひかれました。

高知大学に入学すると、ルネサンスを専門に研究されている先生もいらつしやることを知り、講義も楽しく受けました。特美では絵画や彫刻、陶芸など美術を幅広く学べ、総合的な見方を養えたのがとても良かったですね。イタリアでさまざまなアーティスト、職人さんと触れ合っただけで、その作品や仕事をすんなり理解することができました。大学では美術史を専攻しましたが、ルネサンス美術をコピーしたような油絵もよく描いていました。

高知大学3年生のとき、文通相手に会いにイタリアを初訪問。ルネサンスの中心地であるフィレンツェも訪ね、世界遺産の街並みを堪能し、美術館では素晴らしい作

品に出会いました。この体験が横山さんの 人生を大きく変えることになりました。

ああ、ここがずっと憧れてきたルネサンスの街かと……。あのときの感動はいまでも忘れられません。もっとルネサンスに触れたい、フィレンツェで勉強したいと思い、留学することを決めました。その先のことはいくつも考えていなかった。大学卒業後、すぐにイタリアに渡り、語学学校で勉強したあと、フィレンツェ国立アカデミア美術学校に入学しました。

和紙を媒介にして、 イタリアと日本をつなぐ活動も

横山さんは観光ガイドの仕事をしながら、美術を学び、絵画の制作に励みました。初めて和紙を使ったのは2001年。絵の具で描かれる絵画ではなく、「一般的な」ちぎり絵(とも違う)、「世界のどこにもない作品の誕生」です。



留学当初はルネサンス的な絵を描いていました。でも、私は日本人だしな……と迷いがありました。そんなとき、美術学校の先生に「この絵、日本人っぽくていいね」と言われたんです。その言葉に押され、美術作品に使えるような日本らしい素材といえば和紙だとひらめきました。ちぎりを絵をやったことはなく、すべて自己流。自分で触りながら発展させてきました。

和紙はとても奥が深い。じつは世界的に、絵画の修復には和紙が使われているんです。もつとくわしく知りたいと思って、腕利きの修復士を訪ねて話を聞き、証言ビデオも制作しました。2021年にはイタリアで開催された世界最大のペーパーアート展に参

加し、1500種類の和紙を展示し、講演も行つて「キャリア賞」を受賞しました。

作品の制作に加えて、こうした日本とイタリアをつなぐ活動にも取り組んでいます。

日本の伝統工芸と西洋美術を融合させた、ほかにない独自の作品を発表し続けている横山さん。後輩である高知大学の学生にメッセージを送ってくれました。

イタリアに渡ったとき、特に大志やビジョンなどは持っていませんでした。でも、これが好きというのにはぶれなかった。イタリアが好きで、ルネサンスアートが好き。それだけで、いままでやってきました。誰もやっていないことだから、目の前に道はない。しかし、好きなことをやり続けていると、時間はかかるにせよ、やりたい方向に道ができるような気がします。人生は一度きりしかないので、やりたいことをやったほうがいい。私はいつ死んでも後悔したくないと思っています。



▲ペーパーアート展での講演 キャリア賞のトロフィー

横山明子 さん

高知県出身。1998年高知大学教育学部卒業後イタリアに留学。フィレンツェ国立アカデミア美術学校卒業。在学中の2001年より、和紙を使った作品を制作し始める。イタリアと日本で個展を開催。フィレンツェと京都の交流事業など、イタリアと日本をつなぐ取組にも積極的に参加している。

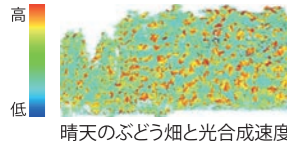


横山明子さんの
facebookはこちら



IoPクラウド「SAWACHI」本格運用開始セレモニー

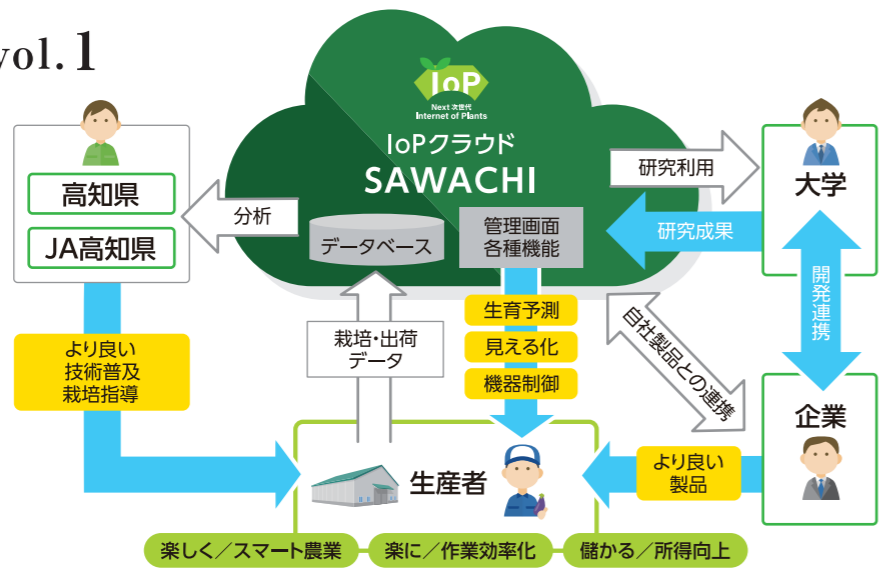
AIの画像認識の技術でわかる光合成速度



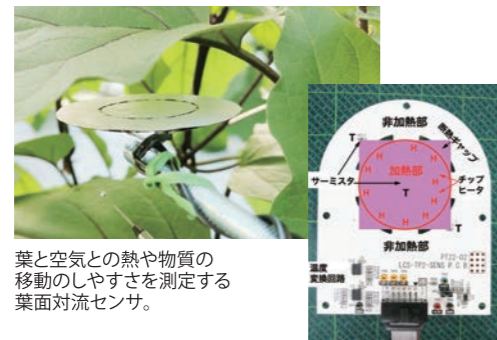
晴天のぶどう畑と光合成速度



曇天のぶどう畑と光合成速度



葉面对流センサの開発と製品化(世界初)



葉と空気との熱や物質の移動のしやすさを測定する葉面对流センサ。

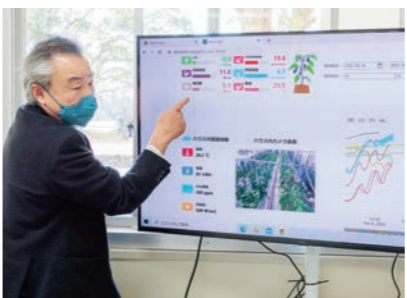
データベースやアプリケーションなどが利用できるサービスで、SAWACHIは高知県が独自に開設しました。IoPに参加している農家や普及指導員などがここにアクセスすることでエンジンを利用

IoP共創センターは、プロジェクトでセンターは主に、研究と人材育成を担っています。研究では、生理生態の情報をリアルタイムで見せる仕組みの構築に取り組みます。具体的には、可視化のために分析を行うAIエンジンの開発です。温度や湿度のほか、農家のハウス内に設置したWebカメラやセンサーで採取した画像

IoPとは何ですか？ 農業は、作物の光合成や蒸散、養水分吸収などの生理生態によって生み出されたものを活用する「ものづくり産業」です。しかし工業と異なり、製造工程といえる生理プロセスの可視化は実現されていません。IoP (Internet of Plants) は、ICTやAIを活用した作物生産におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)デジタル技術を活用して、ビジネスモデルを変革することによって作物の生理生態を「見える化」し、営農に役立てようというものです。その実現に向けた取組が、高知県のIoPプロジェクトです。

高知県の農業に革新をもたらすと期待されるIoP。プロジェクトの一翼を担うのが、2021年10月に開所した「高知大学IoP共創センター」。設立から1年の歩みと今後の展望をセンター長の北野雅治特任教授に話を聞きました。

研究と人材育成の両輪を回して 高知農業を変えるIoPをけん引 IOP共創センター



高知大学 研究のススメ! vol.1

高知大学の研究の「今」をご紹介します。

vol.1



IoP共創センター長 特任教授

北野 雅治

九州大学農学部卒業、同大学院農学研究科中退。農学博士(九州大学)。専門は、農業気象学、生物環境調整学など。施設園芸の環境調整分野で世界を代表する研究者のひとり。IoPの中心研究者として、その構築と実装をテーマに研究を進めている。九州大学教授などを経て、2021年、高知大学に着任。同年10月より現職。

Next 次世代 Internet of Plants

人材育成ではどのようなことを行っていますか？ エンジンによって可視化された情報を、どう使って営農の改善につなげるかを考えられるよう、情報を駆使できる

状態の最適化などを図るために、営農支援AIエンジンも開発しています。

高知大学から 世界初の技術を発信 設立から1年が経過しましたが、どのような成果が上がっていますか？ 生理生態AIエンジンでは、高知の施設園芸の主要品目であるナスとニラが昨年9月から、またキュウリとピーマンが今年4月に、IoPクラウド「SAWACHI」で使うことができるようになります。クラウドとは、インターネットを介して

ジンを開発。さらに生理的な情報を使い、農家が収量の予測や、栽培環境や作物の

IoPを基軸に、DX人材育成の教育を開始 IoPは今後、どのような展開を考えていますか？ IoPクラウドはポータルで境界がない。全国どこからでもアクセスできます。そこでクラウドを介して、他の地方との連携を開始しています。北海道や佐賀県、熊本県、広島県などで連携が始まり、将来的にはIoPの全国への拡大を計画しています。

世界初の技術も開発したと聞きました。 これまでにも1枚の葉がどれだけ光合成しているか、どれだけ水蒸気を拡散しているかを測る装置はありません。営農に役立つような、株や群落単位で測る方法がありませんでしたが、それを、画

これからのセンターの取り組みを教えてください。 2つのメインAIエンジンに加えて、推定収量や利益などに関する収益を改善するための収益改善AIエンジンの開発を進めます。また、対応する作物の品目を、トマトやパプリカ、イチゴなどどんどん増やしていく予定です。



お問い合わせ 高知大学 研究国際部 IoPイノベーション推進課

〒783-8502 高知県南国市物部乙200 TEL:088-864-5173 FAX:088-864-5174 E-mail:kp03@kochi-u.ac.jp



IoP共創センターのホームページはこちら

あるのかなどをディスカッションし、基礎研究をどういう方向で進めていけばいいかを一緒に考えています。自然科学の基礎研究は私自身初めてなので、教えて

「今、私がいる医学部外科学講座は私以外、臨床医師の方で、その中で基礎研究をするのは畑違いだとは思いました。しかし、研究が最終的に医療への応用を目指すのであれば、医学的な知識や臨床で何が求められているか知ることは不可欠です。そのためチャレンジだと考えています」と高橋先生。

医学部と農林海洋科学部、しかも臨床医学との連携という非常に珍しい形で、海洋医学・海洋医療へとステージを広げた赤潮ウイルスの研究。もともと高橋先生は、長崎先生の研究室で3年間、ウイルスの研究を続けていました。

自然科学の基礎研究が臨床医学と融合

「高知の強みはやはり海。私たちがやってきた海洋ウイルスの研究と医学部の臨床研究を結びつけて、新しい分野をつくり出せないかというのが始まりです」と話す高橋迪子特任助教。海洋医学・海洋医療の研究のため、2022年4月に

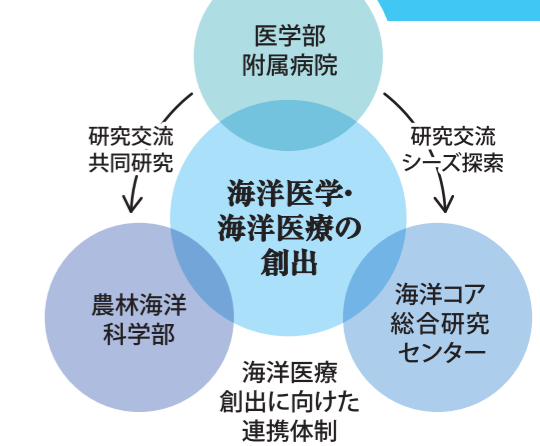


太平洋に面し、長い海岸線を有する高知県。有形無形の海からの豊かな恵みをもたらされてきた土地柄です。そんな地域に根差す大学として創出しようとしている新たな研究領域が、海洋医学・海洋医療です。

医学部と農林海洋科学部、海洋コア総合研究センターが異色のタッグを組んで、新たな研究領域を生み出そうとしています。「海洋医学・海洋医療」の研究がどのようなものなのか、何が行われているのかに迫ります。

海中のウイルスが診断薬開発のヒントに

**健康に
利する
海洋資源を
探索**



高知大学
**研究の
ススメ!**

高知大学の研究の「今」をご紹介します。

vol.2

農林海洋科学部のある物部キャンパスから医学部のある岡豊キャンパスに移り、研究を続けています。

海洋医学・海洋医療は、海洋資源を医学・医療に応用しようという新しい研究領域。もともと高知大学では、農林海洋科学部で海洋研究が盛んに行われ、また、海洋コア総合研究センターは世界に3カ所ある海底の地層を掘って採取された

「柱状試料(コア)」を保管しています。その知見を融合させて、医学において新しい可能性を創出しようとしています。

きっかけになったのは、農林海洋科学部の長崎慶三教授が行っていた赤潮の研究での発見です。「海水中には、赤潮を起すプランクトンに感染するウイルスがいます。ウイルスは、プランクトンの細胞表面にある糖鎖を見分けているのではと考えています。そして、この働きを利用して糖鎖を認識する分子を設計すれば、診断薬として使えるのではなからうかと。このアイデアを、当時、外科学講座の教授だった花崎和弘先生(現医学部附属病院長)に相談したのです」と長崎先生は振り返ります。

例えば、細胞が癌化すると、細胞の表面にある糖鎖が変わります。それを発見できる診断薬として、ウイルスの力を応用できないものか。

長崎先生のアイデアを聞いた花崎先生は、「ぜひ一緒に研究したい」と思いました。すでに糖鎖を使ったものとして腫瘍



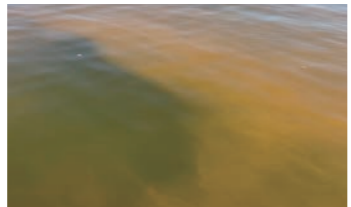
バケツに汲んだ赤潮海水



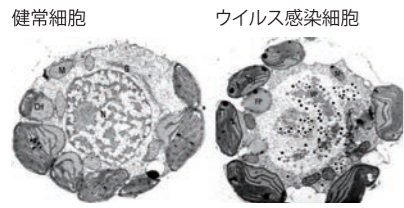
ウイルスに感染したプランクトンを観察



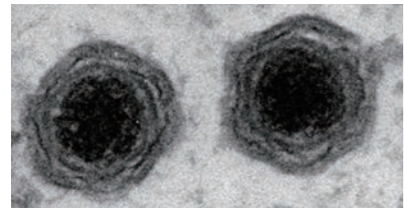
赤潮海水をバケツで汲み上げる



ヘテロシグマによる赤潮発生の様子(高知県浦ノ内湾)



健康細胞 ウイルス感染細胞



ヘテロシグマに感染するウイルス HaVの拡大像(直径は1/5000mm)



サンプリングに向かう船上の様子

医学部 外科学講座 講師
前田 広道

高知県出身。高知医科大学卒業。高知大学大学院医学系研究科博士課程修了。専門は大腸、消化器腹腔鏡手術。医学博士。2007年、医学部附属病院に着任。2022年より現職。

医学部 外科学講座 特任助教
高橋 迪子

神奈川県出身。東京海洋大学海洋科学部卒業。同大学院海洋科学技術研究科博士課程修了。博士(海洋科学)。日本学術振興会特別研究員(PD)として、2019年に高知大学に着任。2022年より現職。

農林海洋科学部 教育研究部 自然科学系 理工学部門 教授
長崎 慶三

岡山県出身。京都大学農学部卒業。農学博士。海洋ウイルス学、水圏微生物学、沿岸生態学が専門。水産庁南海海区水産研究所で赤潮とウイルスを研究。2016年、高知大学に着任。

医学部附属病院長
花崎 和弘

長野県出身。新潟大学医学部卒業。博士(医学)。信州大学外科および関連病院を経て、2006年から高知大学医学部教授。2022年より現職。

私たちの「いま」を ラジオに乗せてお届けします!

高知大学放送研究会JAKKU

FM高知 毎月 最終木曜日 20:00~20:30 放送中!

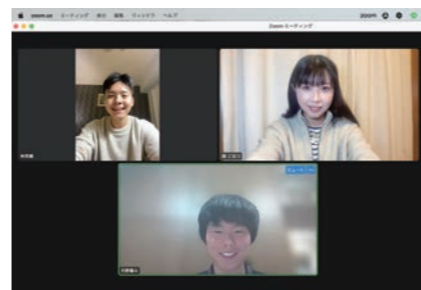


学生が制作するラジオ番組 「じゃくじゃくじゃないと!」

FM高知の毎月最終木曜日、夜8時。ラジオから流れてくるのは、放送研究会JAKKUの面々が制作した30分の番組「じゃくじゃくじゃないと!」です。もともと人文社会科学部の前身、人文科学部の学生がつくった放送サークル。現在はいろいろな学部生が所属し、ラジオ番組のほか、学内イベントの司会などさまざまな活動を行っています。

「ラジオ番組の制作がメインの活動です」と、昨年10月まで代表を務めていた中村聖愛さん(人文社会科学部3年)が説明します。番組企画のために、週1回、Zoomを使ってサークルのメンバーによる企画会議を実施。パーソナリティーや編集などの役割分担を決め、内容を協議するといいます。番組内容で多いのが出演者3人によるトーク企画。「例えば2月ならバレンタインなど、季節に合わせてテーマを決めています」(中村さん)。

気になる内容だが、特に決め事は設けず、高知大学のことも意識はしていないとか。現代表の森こなつさん(人文社会科学



Zoomでの部会

部2年)によると、「ただ、大学生がトークするので、自然とキャンパスや学生のことに触れてはいますね」とのこと。役割分担も決まっているわけではなく、いろいろなことをやりたい人は毎回違う作業を、パーソナリティーだけ、あるいは編集だけをやりたい人はその希望に合わせて調整しているそうです。

企業コラボに挑戦して 新たな経験をゲット

そんなJAKKUの活動の新たなチャレンジが、2022年5月に放送した四国銀行とのコラボレーション企画です。四国銀行の行員の方に番組に参加してもらい、銀行に関する質問などに答えてもらいました。「四国銀行様からお話をいただいたのですが、企業とのコラボは初めてだったので緊張しました。企画内容などに関して打ち合わせをさせていただくなど、社会人の方のやり取りはとても勉強になりました」と中村さんは振り返ります。ラジオでの情報発信や卒業式などの式典での司会進行に加え、企業とのコラボ活動が評価され、JAKKUは高知大学が設けている広報顕彰制度で表彰されました。

番組制作の苦労を聞くと、森さんが頭を悩ませているのは企画アイデアを決める会議です。「Zoomで行うので、対面と比べるとワイワイガヤガヤできず、反応が分かりにくい。でも、これがあったからコロナ禍でも続けられたし…」と悩ましい問題のようです。



入学式での司会の様子

これからやってみたいことを聞くと、「入学式などでいろいろな人にインタビューを行って、それをラジオで流したい。コロナが流行しているときには制限がかかっていたので、できなかった企画です。ぜひ挑戦したいですね」と森さんは意気込みを話します。

どんな番組が作られるのか、ますます期待が高まります。これからもオンエアをお聞き逃しなく!

放送研究会JAKKU
2014年に誕生したサークルで、メンバーは約15人。高校時代には放送部や演劇部に所属していたメンバーもいて、森さんはラジオ好きが高じてFM高知でアルバイトをしているという。知り合いから「ラジオ、聞いていますよ」と言われたことのあるメンバーも。中村さんは「自分の好きな音楽を流すことができるのが活動の醍醐味」とのこと。

JAKKUのSNSはこちら



現代代表
人文社会科学部2年
森こなつさん

番組へのリクエストや感想をお待ちしています!

「カケル大学」
高知の全部が
学びのフィールド
vol.1

牧野植物園 × 高知大学

植物を身近に見られる
絶好の学び場です。

実習のフィールドは、高知が誇る植物園

農林海洋科学部で行われている
フィールドサイエンス実習。
その学びの場の一つが、世界的な植物分類学者
牧野富太郎博士ゆかりの高知県立牧野植物園です。

植物と微生物の関係性を 植物園での実習で実感

農林海洋科学部では1年生の前期、この学部ならではの学びである「フィールドサイエンス実習」が行われます。「農林海洋科学部とはどういう学部なのか、これから何を学ぶのか、産業界ではどう活動しているのか」といった

ことを体験実習や実験、施設の見学などを通して知るのが目的です」と担当教員の1人若松泰介准教授が解説します。

学びの場となるのは、農業や林業、漁業、酒造り、室戸海洋深層水取水の施設などです。そしていま話題の高知県立牧野植物園。高知県出身の世界的な植物分類学者で、連続テレビ小説『らんまん』(NHK)の主人公のモデルでもある牧野富太郎博士を顕彰する植物園です。この施設を選んだのは、植物学の研究者ではなく、微生物を専門とする若松先生。なぜ、牧野植物園を実習の場にしたのでしょうか。



写真提供: 高知県立牧野植物園



牧野植物園のHPはこちら

牧野植物園のシンボル
バイカオウレン

「微生物は目に見えない存在です。しかし、実際

実習日は朝倉キャンパスに集合してバスで訪問。当初はまず、牧野植物園の解説員と一緒に園内を1~2時間巡っていました。けれども、新型コロナウイルス感染症が流行したため、高知大学がオンライン授業化、また、牧野植物園側が団体の受け入れを休止。これを受けて、2020年と2021年度は担当教員が解説員の解説を録画し、講義で学生に見せる方式に変更しました。

しかし、フィールドサイエンス実習はみんなの願いというので、2022年には再び牧野植物園を訪れました。「解説員による解説はまだ再開できませんが、その代わりに



キレイツトリモチ

シアター見学をして、牧野博士の業績や高知の植物などを紹介するオリジナル作品「高知自然紀行」を鑑賞します。それからグループに分かれて植物に触ったり匂いを嗅いだりできるユニークなエリア『ふむむむ広場』など園内を自由見学。実習後、植物と微生物の関係に関するレポートを提出してもらいます。

実習後は学生からアンケートを取り、「初めて行きましたがとても良い植物園でした」「さまざまな植物に触られて良かった」といった感想が寄せられています。「特に都会育ちの学生は、植物や土壌に触れる経験をあまりしたことがないでしょう。牧野植物園はフィールドサイエンス実習の場として、とても適していると思います」と若松先生。これからは絶好の学びの場として、牧野植物園との連携は続いていきます。

農林海洋科学部 教育研究部
総合科学系生命環境医学部門 准教授

若松 泰介

岡山県出身。岡山大学工学部卒業後、大阪大学大学院生命機能研究科へ。博士(理学)。九州大学の研究員を経て、2013年、高知大学に着任。専門は新規有用蛋白質の探索、機能解析・構造解析、応用。「以前は温泉などの極限環境微生物を研究対象にしています。高知大学では海洋コア総合研究センターとの共同研究である海底下微生物の研究などに取り組んでいます。



第6回高知大学フォトコンテスト入賞作品

今回のコンテストでは、学内選考委員、学長及び理事(広報担当)による審査の結果、応募総数112作品の中から7作品が入賞となりました。

募集テーマ:「記念」
募集期間:令和4年8月8日~11月10日
応募対象:高知大学学生、卒業生、教職員

金賞



林業女子になる!と決意した日 撮影者:Mami

2015年11月3日の物部キャンパス一日公開にて、初めて「のこぎり体験」した時(当時2歳)の1枚。



空にビクトリー 撮影者:ゆめ

高知大学の木付近でふと見上げると空にVの字ができていたので記念に撮りました。特に記念の日ではないものの、この空が僕の記念になりました。

銀賞



瞬間 撮影者:山本 歩実

私はサッカー部のマネージャーと部の広報部に所属しています。この写真は初めて一眼レフカメラを持って試合に帯同した時の写真です。1年経った今、他にも試合に行って撮影した写真はありますが、この写真が一番撮影して印象に残っている大切なものです。少しばかり同僚の最前線目もあるかもしれませんが笑二人の何気ない瞬間を撮影できた「記念」として今回のコンテストに応募しました。これからも部活での何気ない瞬間を記念できるように写真を撮り続けようと思います。



大賞

新しい風 撮影者:矢野 宏光

学生剣道の団体日本一を決める全日本女子学生剣道優勝大会において、高知大学が準々決勝まで進出し「敢闘賞」を受賞した時の写真です。高知大学体育会剣道部は、1952年(昭和27年)創部で長い歴史を持つ部ですが、団体で全国のベスト8に入ったのは今回が初。高知大剣道部の「記念すべき新たな歴史」が今ここに始まりました。70年の歳月を経て、高知大剣道部員達は全国の舞台でも臆すること無く「あかるく」「元気に」まるで高知の大地に吹く南風のように、いきいきと強い輝きを放っています。

特別賞



舞え! 撮影者:高林 奈都子

3年ぶりのよさこい



skyfeather 撮影者:hub

のどかな昼下りでした。グラウンドの上に羽を広げたような雲が流れていました。



散髪 撮影者:m

メインストリートの木が散髪されてスッキリ。

台湾教育部USR推進センター及び台湾5大学が本学を来訪しました

2022年12月6日(火)から7日(水)にかけて、台湾教育部USR推進センターの蘇代表及び台湾5大学(国立暨南(きなん)国際大学、国立高雄科技大学、国立中山大学、国立台湾海洋大学、東海大学)の校長や副校長が、高知大学を来訪しました。

台湾教育部は、大学の社会的責任として、地域開発の価値を創造可能な学生を育成する「大学の社会的責任実践(USR)プロジェクト」を2017年から実施しています。

また、台湾5大学は、日台大学地方連携及び社会実践連盟(日台連盟)の加盟校です。本連盟は、高齢化社会や少子化など、類似した社会問題を抱える日本と台湾の大学が、それぞれの取組を共有し、地域発展に寄与することを目的としたプラットフォームです。

今回の訪問は、台湾教育部USR推進センター主導で行われたもので、2021年11月の連盟発足以来、台湾側加盟校の初めての来日となりました。

来訪初日の12月6日には、地方創生に関する実績として、本学が最高評価Sを受けたCOC/COC+事業について受田浩之理事より紹介が行われました。また、全国に先駆けて設立した地域協働学部における取組について大石達良地域協働学部長より紹介が行われました。さらに、国立台湾海洋大学(台湾側加盟校)との学術交流協定調印式及び調印を記念したオンラインセミナーも行われ、両大学の海洋に関する研究成果について、国内外から多くの関心が寄せられました。

翌12月7日には、本学を含む産学官が連携して取り組んでいる土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業(土佐FBC)、Internet of Plantsが導くNext次世代型施設園芸農業への進化プロジェクト(IoPプロジェクト)の視察が行われました。

全日程を通じて、台湾側加盟校からは、いかに地域をまきこんで事業を存続させるのかなど、熱心な質問が行われました。

今回の来訪は、今後の高知県、ひいては日本全体の地方創生につながる、重要な機会となりました。



高知大学古本募金

読み終わった本で高知大学をご支援ください。高知大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が高知大学に寄附される取組です。古本募金を通じて集まった寄附金は「高知大学さきかけ志金」として受け入れ、本学の教育研究・社会貢献活動の向上のために役立てられます。

〈お問い合わせ先〉受付9:00~18:00

☎0120-29-7000

- 本・DVD
- ↓配送↓
- 古本募金
- きしゃぼん
- ↓査定・寄附↓
- 大学

高知大学古本募金 検索

運営協賛 古本募金きしゃぼん(嵯峨野株式会社)

高知大学のラジオコーナー

高知大学の教育・研究・地域貢献等の情報をFM高知でお届けしています。ラジオ聴取用アプリ「radiko」をダウンロードしていただくと、スマホやパソコンで全国どこでも視聴いただけます。

FM 高知 81.6MHz 【毎月】第4金曜日
「Monthly 高知大学」 10時15分~



※写真はイメージです。

地方大学・地域産業創生交付金事業「展開枠」採択の内示について

内閣府の令和4年度地方大学・地域産業創生交付金事業「展開枠」において、高知大学が参画する産学官連携プロジェクト「IoP(Internet of Plants)」が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化が、採択の内示を受けました。

本事業では、認定5年目の採択自治体を対象に、更に国費を投入することによって既存の計画以上の加速・強化・拡大が期待できる取組を支援する「展開枠」を設けています。

本プロジェクトでは、これまで開発してきたIoPの技術を①「全国展開・グローバル化」していくこと、②確立した「IoPクラウド」をデータ連携プラットフォームに進化させていくこと、さらに③施設園芸農業の環境負荷並びに生産コストの最小化を目指す「GX(グリーン・トランスフォーメーション)with IoP」を確立してまいります。

また、本事業において高知大学では、IoP共創センターの設立やデータサイエンス教育を大幅に強化した農林海洋科学部の改組を実現してきました。今後はさらに、展開枠で実施する大学院改革や、IoP共創センターのサテライト拠点構築・海外連携強化で得られる教育研究成果を地域社会に還元することで、地方創生に貢献していきます。

そして、本学が掲げる地域を支え地域を変えられる大学=Super Regional University(SRU)の輝くべき柱としていきます。



「地域医療を支える四国病院経営プログラム」が最高評価である「S評価」を獲得

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム(以下、「本事業」という)」の事後評価において、高知大学、香川大学、高知工科大学及び高知県立大学が連携して実施した「地域医療を支える四国病院経営プログラム(以下、「本プログラム」という)」が、最高評価である「S評価」を獲得しました。

本事業は、我が国の医療現場が抱える諸課題に対して、科学的根拠に基づいた医療を提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成することを目的として実施しているものです。その中で本プログラムは平成29年度に採択され、病院経営人材の養成を目的として、令和3年度まで実施しました。本プログラムでは、模擬実践となるケースディスカッションを講義・演習に取り入れるとともに、経営に関するプロジェクト発表などのリアルな実践の場をカリキュラム内に設けています。また、トップ経営陣と現場責任者を同時に教育することで、OODA型対応病院経営人材を養成しており(※)、待たなしの病院経営分野に突破力がある人材を送り込むことを目的としたプログラムです(事業期間中60名修了)。

また、令和4年度から本学独自のプログラムとして深化させ、実践教育を継承して地域医療を支える人材の育成に取り組んでいます。

令和3年度までの取組に対する文部科学省の事後評価では、評価対象全10事業のうち、唯一、本プログラムが「計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できた」と評価できる。として、最高評価である「S評価」を受けました。

※OODA Observe(観察)、Orient(方向づけ)、Decide(決定)、Act(行動)という4つの言葉の頭文字を取った、目標達成のための考え。



地域医療を支える 四国病院経営プログラム SHIKOKU HOSPITAL MANAGEMENT PROGRAM

入試・イベント情報

2024年度入試(2024年4月入学)情報

6月上旬に「入学者選抜に関する要項」を公表予定です!※実施する選抜は学部・学科等により異なります。詳しくは「入学者選抜に関する要項」でご確認ください。

2025年度入試(2025年4月入学)情報

2023年3月下旬に「高知大学受験生サイト」で公表予定です。



オープンキャンパス2023 8月5日(土)、6日(日)開催予定!

「学生募集要項」の公表時期

公表時期(2023年)	選 抜	学 部					
		人文 社会科	教育	理工	医	農林 海洋科	地域 協働
6月上旬	総合型選抜I	●	—	●	●	●	●
	学校推薦型選抜I	●	●	●	●	●	●
	学校推薦型選抜II	●	●	●	●	●	—
	国際バカロレア選抜	●	●	●	●	●	—
10月下旬	一般選抜(前期日程・後期日程)	●	●	●	●	●	●

6月上旬 「入学者選抜に関する要項」を公表予定!全選抜の概要をご覧ください。



令和4年～令和6年 高知大学は創立75周年記念事業を実施します

事業の目的

- (1) 75年間の歴史と伝統を顧み、卒業生・旧教職員の功績、地域社会の支えを貴ぶ。
- (2) 22世紀を見据え、高知大学の教育研究・社会貢献の展望を拓く。
- (3) 在学生・卒業生・同窓会・後援会・旧現教職員をはじめ高知大学に関わってきた方々及び地域社会との豊かな絆を育む。

事業期間

2022年5月～2024年11月(2年半のアニバーサリー)

2022年

* 旧制高知高等学校開設 100周年

5月14日 高知大学創立75周年記念事業キックオフイベント

10月1日 第1回高知大学創立75周年記念シンポジウム
「LXで切り拓く持続可能な地域づくりへの挑戦」

10月30日 高知大学 GIVING CAMPAIGN



2023年

* 高知大学と高知医科大学との統合 20周年

1月21日 第12回ホームカミングデー(オンライン・ライブ配信)
第2回高知大学創立75周年記念シンポジウム
「共感から生まれるコミュニティで人は幸せになれる
～創立75周年を契機に「共感」で溢れる高知大学に～」

高知大学に関わりのある全ての方々に年に一度は大学に引き絆を深めるイベントとして特別シンポジウムをはじめとしたライブ配信イベントを行いました。また、高知大学の教育・研究・学生活動・地域連携等について動画等を活用し大学の“今”について情報発信を行いました。

・特別記念講演者：堀見和道 高知大学理事特別補佐



ライブ配信
イベントの
アーカイブは
こちら

3月18日 第3回高知大学創立75周年記念シンポジウム
「持続可能な地域づくりは土佐の山間より!」

椿原町を会場として、本学地域協働学部の教員による基調講演や本学学生による活動発表、椿原町吉田町長を交えたパネルディスカッションを開催します。



8月 よさこいプロジェクト

よさこい祭りの開催にあわせ、朝倉キャンパスによさこい演舞場を用意します。高知大学ゆかりのチームを中心に実施し、卒業生が母校に集うきっかけをつくります。



11月 高知大学校友会の設置

高知大学として、校友会を立ち上げます。高知大学と卒業生や高知大学関係者との絆を再構築し、高知大学の総合力を高めます。

- 学生への様々な支援
 - 校友への情報共有の促進
 - 校友間の交流支援
- など、様々な取組・支援を実施予定です。

校友会入会についてのご案内は2023年4月頃を目指しています。

高知大学と高知医科大学との統合20周年記念式典

2024年

* 陶冶学舎開設 150周年 * 高知大学創立 75周年



朝倉キャンパス内に創立75周年記念のフラッグを設置しました。

高知大学創立75周年記念事業へのご寄附をお願いいたします

SRU (Super Regional University: 地域を支え地域を変えることができる大学) を目指し教職員学生一同、一丸となって邁進する所存でございます。今後の国立大学法人高知大学の目指す方向にご賛同いただきご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附は
こちらから



高知大学 総務課広報室

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

TEL:088-844-8967

FAX:088-844-8033

E-mail: kh13@kochi-u.ac.jp

高知大学マガジンはこちら



* 誌面の学年と役職は制作時のものです。